

## 当選おめでとう

松浦 純子

今年三月、東大合格者に占める女子の割合が初めて二割を超えたと話題になった。大学としては女子学生を三割にしたいと考えているので、まだ目標には届かないが、一つの壁を越えたことは確かである。同じく四月の市議選でも当選者の女性比率が二割を超えたと報じられた。両方とも女性に門戸が開かれてから八十年近くたってやっと実現した二割超えである。

その四月の市議選で初当選した女性の一人が、私が高校で担任した生徒である。昨年の秋、「私、今度の選挙に立候補することにしました」と挨拶に来た。初めはびっくりしたが、「体に気を付けて選挙運動をしてね」などと励ました。特に政治の世界では、本人や周りの人々の誤解を招く言動は政治生命にかかわるので、差し障りのない言葉しかかけられなかった。

選挙が終わって「おめでとう」と送ったメールの返信に、「連休中に学校で開かれる同窓会の総会に出席するので、その時先生に会いたい」と連絡してきた。教え子が会いたいといえば休日返上で出勤である。総会が終わった後、彼女とかわりのある先生も交えて短い時間であるが話すことができた。

当然、話題は選挙と議員としての抱負である。選挙では、自分には地盤がなくゼロからのスタートだった、手伝ってくれる人もSNSを通して募集したが選挙活動が初めての人ばかりだった、高校の友達も何人か手伝ってくれた、今までの選挙の仕方を変えたかったので選挙カーの中から声を出すことはしなかった、自分の主張は街頭で聞いてもらったなど、自分のやり方を最後まで貫いたと話していた。そういえば選挙カーから聞こえてきたのは候補者の名前だけで、政策の「せ」の字もなかったなど改めて思った。彼女は小さな子供を育てながらの選挙活動だったので、車から大声を出すことにはためらいがあったということだ。

議員としての抱負も語ってくれたが、新人はどの委員会に入りたいなどとは言えないので、入った委員会で自分が考えている抱負を実現していきたいと語っていた。足を引っ張られても蹴り返して欲しいと思った。おっと、この発言問題あり!!